

## 報告

# 看護技術習得を支援するラーニング・アシスタント制度の活用に関する実践報告

佐居由美, 鈴木彩加

聖路加国際大学 大学院看護学研究科

要約：本学では教育環境をより充実させるため、2017 年度よりラーニング・アシスタント（以下、LA）制度を導入した。著者らは看護技術を習得する科目において、LA 制度を活用している。本稿では、その実践について報告する。看護学部 2 年生の必修科目「基礎看護技術論 I」にて、12 名の LA が登録し、演習時の教育補助活動および自己学習支援活動を行った。自己学習支援活動は、のべ 35 回（平均 3.5 時間）実施された。活動を評価するため、履修者を対象に、2017 年 5 月に WEB アンケートを行った。履修者 85 名中 79 名（92.9%）の回答を得た。うち、77 名（97%）が LA 制度は「よい」と回答した。LA 制度は履修者から高評価を得ており、学習支援制度として有効であると示唆された。一方で、LA に聞きづらいという意見があり、LA の対応についてのオリエンテーション内容を改善する必要性が明らかになった。（キーワード：ラーニング・アシスタント、基礎看護技術、WEB アンケート）

## Utilization of a Learning Assistant System to Support the Acquisition of Nursing Skills

Yumi SAKYO, Ayaka SUZUKI

St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science

Abstract: The Learning Assistant (LA) system was introduced to our college in 2017. Here we report on the utilization of the LA system in subjects in order to learn nursing skills. An online questionnaire was administered to 85 students taking a Basic Nursing Skills class in May 2017. We received responses from 79 students (92.9%), of whom 77 (97%) reported that the LA support they received was positive. The LA system was highly praised by students and effective as a learning support system. However, the participants expressed the opinion that it was difficult to ask the learning assistants for help. This indicates a need to improve the LA system.

(Key Words: learning assistant, basic nursing skills, web questionnaire)

### 1. はじめに

近年、医療の高度化、患者の権利意識の増強等により、看護学生が病棟実習において経験できる看護技術は限定され、卒業時の看護学生の看護実践能力の低さが問題となっている。このような現状を鑑み、本学看護学部では、臨床に強い看護職の育成をめざし、実習を強化したカリキュラム<sup>1)</sup>を構築している。

学生が病棟実習を行うには、実践可能なレベル

まで看護技術を習得していることが前提であるが、学生の技術の習得レベルには差があり、技術の習得状況は個人特性が大きく影響する。加えて、昨今の看護学生は未成熟で社会的スキルが低く、多様で複雑な看護の対象に対応できず、実習状況に適応することに困難を感じる学生が少なくない。困難な状況に直面した学生は自らの特性にあわせて、また、実習にて担当した看護対象の多様性にあわせて自己学習することが必須となる。このよ

うな学生の基礎看護技術習得を支援するため、筆者らの担当する科目において、2017 年度よりラーニング・アシスタント制度の導入を行った。

ラーニング・アシスタント(以下, LA)とは、「大学生および大学院生の学習にかかわる支援活動を担当する学生スタッフ」<sup>2)</sup>と定義され、関西大学をはじめ<sup>3)</sup>、多くの大学にて活用されている。大学によって名称や制度の運用内容は様々であり、報酬が支払われる大学もあるが、履修科目として実施している大学もある。アシスタントの内容としては、科目の補助員としての授業の運営補佐やグループワークにおける進行係などの教育活動上の補助を行うケース(関西学院大学<sup>注1)</sup>、大阪樟蔭女子大学<sup>注2)</sup>、淑徳大学<sup>注3)</sup>、國學院大學<sup>注4)</sup>)や、図書館などに在籍時間を設け、レポートやパソコン操作、履修計画、学生生活などについての相談支援を行っている大学もある(仁愛大学<sup>注5)</sup>、筑波大学<sup>注6)</sup>、大阪大学<sup>注7)</sup>、愛知学院大学<sup>注8)</sup>、関西大学<sup>注9)</sup>、早稲田大学<sup>注10)</sup>、同志社大学<sup>注11)</sup>)。

本稿では、本学の看護学部で基礎看護技術習得のために導入した LA 制度の実践について報告する。

## 2. 本学におけるラーニング・アシスタント制度

本学では、2017 年度よりラーニング・アシスタント(以下, LA)制度に関する規程が制定された。本制度の目的は、「学部生が教育業務の遂行を補助することで学部教育の充実を図ること」「LA の看護学教育の経験および奨学に資する」とされている。LA 採用は、科目の担当教員による学生への募集アナウンスから始まり、希望者が学生支援センターに応募し、担当委員会にて選考され決定する。科目担当者は LA 活動に責任をもち、年度内に成果報告書を学部長に提出することが義務付けられている。また、希望者には活動時間に応じた謝金が支払われる。

## 3. ラーニング・アシスタント活動の実際

### 1) 登録者数と準備

今回、LA 導入を行った「基礎看護技術論I(看護学部 2 年生前期必修科目, 2 単位)」は、看護技術

習得を学習目的とした科目である。2017 年度に LA に応募した学生は、看護学部 4 年生 7 名、看護学部 3 年生 10 名であり、全員が担当委員会の選考を経て採用された。4 年生は「基礎看護技術論I」演習時の教育補助活動、3 年生は演習内容に関連した自己学習支援活動を、看護実習室(以下、実習室)にて担当することとした。

LA 活動を円滑に行えるように、月に 1 回、実習室助手を含む科目担当教員と LA 学生とでミーティング(約 30 分)を開催した<sup>4)</sup>。実習室助手とは、実習室にて学部学生の自己学習を支援する専任の助手であり、本学では 2015 年度より採用されている<sup>5)</sup>。ミーティングでは、教育補助業務の内容の確認や、自己学習支援実施上の課題について検討を行った。加えて、LA の活動内容の質を担保するため、活動前には必ず打ち合わせ及び教授内容確認のための時間(約 30 分)を設けた。また、実習室助手が、自己学習支援を行うための「LA 活動マニュアル」を作成し、LA を対象にオリエンテーションを行った。オリエンテーションの内容は、支援内容の確認方法、自己学習物品の場所、消耗品の取扱い、支援内容に迷ったときの対応等であった。

### 2) 活動回数と内容

2017 年 4 月～7 月の期間に、4 年生は 8 回の演習の教育補助を担った(表 1)。教育補助を行った演習は、ベッドメイキング、車椅子移乗、全身清拭、導尿、浣腸、吸引、陰部洗浄などであった。

3 年生による自己学習支援は、実習室に LA サポートデスクを設置して行った(図 1)。自己学習支援活動は、のべ 35 回実施され、1 回あたり平均 3.5 時間(最短時間 1 時間 45 分、最長時間 8 時間 30 分)、合計 119 時間 30 分支援を行った。3 年生の自己学習支援を受けた 2 年生は、のべ 700 名、1 回あたりの平均人数としては、19.6 名(最大 70 名、最小 2 名)であった。支援は、履修学生の演習前の自己学習に対して行われた。支援件数は、ベッドメイキングが 71 件、車椅子移乗が 31 件、全身清拭が 27 件、導尿が 25 件、吸引が 6 件であった。



図 1 自己学習支援中の LA (LA デスクに待機中)



図 2 LA による実習室環境整備内容の掲示

このような直接的な支援の他に、履修学生が自己学習をする場の環境の整備(自己学習後に物品を片付けていない、ベッドが整えられていないなど)活動も LA は実施していた。この環境整備活動は、2017 年 5 月の時点で 582 件と、ベッドメイキングなどの直接的な支援に比して、突出した件数であった。そのため、LA による実習室環境整備内容を円グラフにして LA デスクに掲示(図 2)し、環境整備が不十分な点について注意喚起した。LA ミーティングにおいても検討し、支援時に LA が片付けについて声かけすることとなった。加えて、片付け不十分な現場写真を添付したメールを、履修者全員に送付し、実習室使用後は環境を整備するよう通達した。その結果、6~7 月の LA による環境整備活動は 406 件となった。

### 3) LA による活動報告書の作成

LA 活動の共有および改善を目的に、LA には日

表 1 看護技術科目ラーニング・アシスタント (LA) 活動内容概要 (2017 年 4~7 月)

学年	3 年生	4 年生
活動内容	履修者の自己学習支援	演習時の教育補助
活動期間	4~7 月	4~7 月
採用人数	10 名	7 名
(各回人数)	(各 1~3 名)	(各 1~2 名)
回数	35 回	演習 8 回
(時間)	(119.5 時間)	(1 回 平均 2 時間)
支援を受けた学生数	700 名	演習 1 回あたり 50 名
(1 回平均数)	(平均 19.6 名)	
具体的内容	ベッドメイキング 71 件	[演習①: ベッドメイキング, 全身清拭, 車椅子移乗]
[一部抜粋]	車椅子移乗 31 件	・オリエンテーション 1 回
	全身清拭 27 件	・演習①演習 3 回
	導尿 25 件	[演習②: 導尿, 洗腸, 吸引, 陰部洗浄]
	陰部洗浄 16 件	・オリエンテーション 1 回
	吸引 6 件	・演習②演習 3 回

々の活動報告書の作成を依頼した。報告書は「実施内容」と「今後の課題」等から構成され、共有のクラウドシステムに保管し、LA および担当教員の閲覧を可能とした。報告書の内容を共有することにより、LA はお互いの活動を知り自身の活動に活かし、教員は LA の活動上の疑問や不安に早期に対応することができた。

## 4. LA 活動についてのアンケートの実施

### 1) アンケート方法

LA 活動の改善点を明らかにすることを目的に、当該履修者(看護学部 2 年生)を対象に、WEB アンケートによる調査を行った(アンケートは依頼後、約 1 週間にて締め切った)。科目開講中の 2017 年 5 月に実施し、質問は全 7 問で、「4 年生(3 年生)の LA の支援を受けたか」「4 年生(3 年生)の LA は学びを支援してくれたか」「LA 制度についての評価」「評価の理由」「LA 制度に関する自由な感想や意見」について回答を求めた。

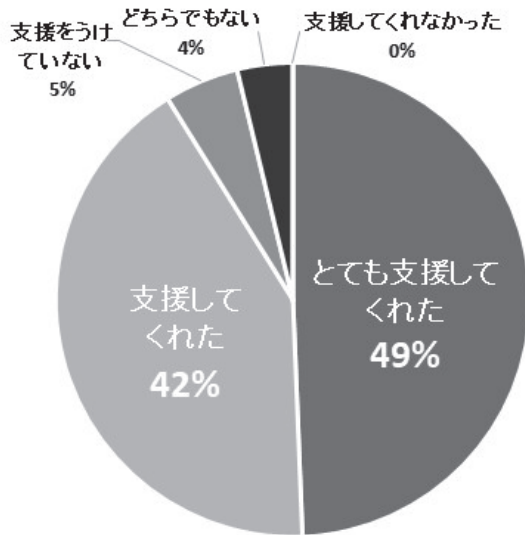


図 3 4年生による支援の程度 (n=79)

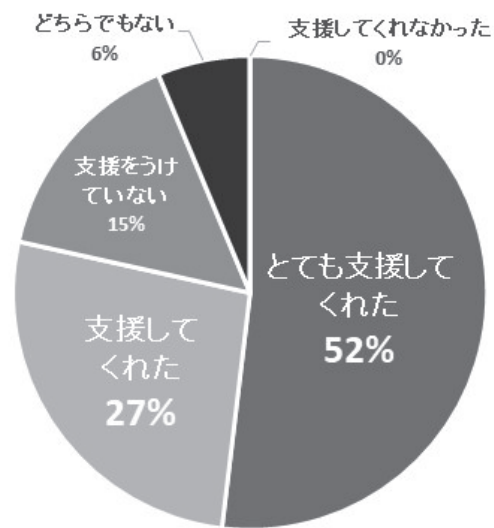


図 4 3年生による支援の程度 (n=79)

## 2) 倫理的配慮

WEB アンケート冒頭に、調査目的および集計して公表する(回答者は特定されない)旨記載した。また、回答が必須である質問は設定せず、任意性に配慮した。成績評価に関与しない実習室助手が説明を行うことで強制力を排除した。また、本稿掲載写真は、被写体に論文への掲載について eメールにて了解を求め、同意を得た。なお、本論文に関連し開示すべき利益相反はない。

## 3) 調査結果

履修者 85 名中 79 名 (92.9%) の回答を得た。

### (1) 支援を受けた人数とその程度

教育補助活動を担当した 4 年生に「支援を受けた」と回答した履修者は、79 名中 73 名 (93%) であった。支援の程度について、5 件法で回答を求めたところ、39 名 (49%) が「とても支援してくれた」と回答した(図 3)。

実習室での自己学習支援を担当した 3 年生に「支援を受けた」と回答した履修者は、67 名 (85%) であった。41 名 (52%) が「とても支援してくれた」と回答した(図 4)。

### (2) LA 制度についての評価

LA 制度自体について、5 件法で評価を求めたところ、77 名 (97%) が「よい(とてもよい, よい)」

2 名 (3%) が「どちらでもない」と回答した。

また、回答内容の理由を記載する設問を設けたところ、75 件の回答があった(表 2)。内容は 9 項目に分類され、多い順に、「質問しやすい(16 件)」「経験談が聞ける(12 件)」「細かく教えてくれる(11 件)」「すぐにいつでも聞ける(10 件)」「わかりやすく教えてくれる(8 件)」などであった。一方で、「(LA 同士で)話していたりすることが多く、喋りづらかったことがあった」という回答もあった。

### (3) LA 制度についての自由な意見

また、LA 制度について、自由に内容を記載できる質問項目には、51 件の記入があった(表 3)。その内容は、「とてもよかった(27 件)」「継続してほしい(8 件)」などの肯定的な意見の他に、「どこまで詳しく質問してよいのかが難しく、聞きづらかった」「先生によって言うことが違っていて LA さんも適応が大変そうだった」といった「今後の課題(7 件)」に関連する内容も見られた。

### (4) アンケートにより明らかになった課題と対応

アンケート結果は、集計後、直ちに、LA と担当教員間にて LA ミーティングで共有し、結果について検討を行った。自由記述により、「LA 同士が喋っていて、話しかけづらい」「何を質問していい

表 2 LA 制度が「よい(とてもよい)/どちらでもない」理由 (n=75)

<p><b>1. 質問しやすい (16 件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生よりも先輩の方が質問をしやすく、質問できたから</li> <li>わからないことを先生に聞くよりも気軽に聞けて、疑問をすぐに解決できたなど</li> </ul> <p><b>2. 経験談が聞ける (12 件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書には載っていない実践的なことを聞けたので良かったです</li> <li>同じ経験をしているので、とても親身になってくれることも良いと感じた</li> <li>実際に病棟でやった時の話を聞くことができ、病棟で自分が患者さんに行くイメージが浮かんだなど</li> </ul> <p><b>3. 細かく教えてくれる (11 件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自主練習の時に細かく教えてくださったので、練習しやすかったです</li> <li>自分たちだけでは気づけないことを教えてくれるからなど</li> </ul> <p><b>4. すぐにいつでも聞ける (10 件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わからないとき、すぐに解決することができたから</li> <li>放課後、先生がいない間でも聞くことができたので助かりましたなど</li> </ul> <p><b>5. わかりやすく教えてくれる (8 件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分からないことや気づけなかった間違い等を優しく教えてください、とても助かった</li> <li>わかりやすいしとてもよかったなど</li> </ul> <p><b>6. 気にかけてくれて安心感がある (8 件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己学習中に気にかけてくれ、不明点があればすぐに解消できるという安心感がある</li> <li>分からない時に声を積極的にかけてくださったので聞きやすく理解しやすかったためなど</li> </ul> <p><b>7. コツなど授業や DVD で不明な点を教えてくれる (7 件)</b></p> <p><b>8. 目線が近い (2 件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生目線で参考になる</li> <li>学年が近く、私達の立場に立って教えてくれたり、アドバイスをくれるため</li> </ul> <p><b>9. その他 (1 件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>皆さん(LA 同士)で話していたりすることが多く喋りづかったことがあった</li> </ul>
--

かわからない」「教員の指導内容の違いにより、LA が適応困難になっている」などの課題が明らかに

表 3 LA 制度についての自由記述 (n=51)

<p><b>1. とてもよかった (27 件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>とても、よいと思う!</li> <li>先輩と関わりを持つ機会にもなるので良いと思うなど</li> </ul> <p><b>2. 継続してほしい (8 件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生は 1 人しかいないので、LA 制度を続けてほしいなど</li> </ul> <p><b>3 学びが深まる (2 件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学びの充実ができるなど</li> </ul> <p><b>4. その他 (14 件)</b></p> <p>1) 今後の課題 (7 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どこまで詳しく質問して良いのかが難しく、なかなか聞きづらかった</li> <li>先生によって言うことが違って LA さんもそれに適応するのが大変そうだったなど</li> </ul> <p>2) 感謝の言葉 他 (7 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>真摯になって教えていただきました。助かりました</li> <li>非常に手厚い支援で、演習を乗り切ることができました。感謝しています</li> <li>私も、来年または再来年、機会があれば自分の学びのためにもやりたいですなど</li> </ul>
--

表 4 アンケートで明らかになった課題と対応

課題	対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>LA 同士が話し込み、声をかけにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>LA に調査結果を伝え、態度の改善を求めた</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>質問できる内容がわからず、LA に聞きづらい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>LA からも声をかけるよう、LA に説明した</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>教員によって指導内容が異なり、LA が適応に苦慮していた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員間の演習指導内容の差異について、LA ミーティング(月一回開催)にて、その有無および対応について検討した</li> <li>単位認定者は、LA による活動報告書を必ず数日中には確認し、活動支援における疑問点がある場合は、速やかに助言した</li> </ul>

なったため、ミーティングにて、対応を検討し実施した (表 4)。

### (5) アンケート結果のまとめ

LA 制度は、履修者から概ね高評価を得ており、学習支援制度として有効であると示唆された。一方で、「LA に聞きづらい」「教員と異なる支援内容であった」といった課題も明らかになり、改善のための取り組みの必要性が改めて示された。今後も、LA 制度の周知方法の検討や、LA と教員との認識の統一をはかる取り組み等を実施していく必要がある。

## 5. 考察

看護技術教育における LA 制度について調査を行ったところ、履修者は LA 制度を、質問しやすく経験談が聞ける制度であり、いつでも聞けて、コツなどわかりやすく教えてもらえると捉えていた。LA 制度における上級生による下級生への支援は、学習の当事者の立場を理解し、学生自身の状況に寄り添ってなされているといえよう。このことは、学生の自己効力感を高め、能動的な学習を促進し、かつ学習意欲継続に貢献するものであると考える。そして、「私も、やりたい」という回答もあるように、本 LA 制度によって支援を受けた学生が、次年度以降には支援する立場となることで、支援内容は、学びの主体である学習者の視点を含めつつ集積されていくだろう。今後は、LA 活動は、いつでもどこからでも支援をうけることのできる web 支援や、教員との協働による実習室での直接的な看護技術習得支援、学生の特性に合わせた個別サポートなど、より発展していくことも期待できる。

一方で、LA の活動では、看護技術に関する支援の他に、実習室環境整備といった間接的な支援も行われていた。その件数は約 1,000 件と他の支援件数の 10 倍以上であり、使用後の後片付けが不十分であることが、明らかになった。実習室利用上のルールが守られず、環境が不整備となることは過去にも指摘されており<sup>5)</sup>、実習室を自己学習にて学生間で共有するうえでの課題が本調査によっても示された。本学には、「学生の自己学習推進とその支援のための環境整備」を役割とする委員会(実習室小委員会)がある<sup>5)</sup>。実習室使用上のマ

ナーについては、担当委員会である実習室小委員会と協働し対策を検討する必要がある。

今後も、看護学生の看護実践能力向上に向け学習環境をより整備するため、LA 活動をさらに発展させたいと考えている。

## 謝辞

本活動を支援して下さったすべての皆様に感謝申し上げます。

特に、ラーニング・アシスタントのみなさん、科目担当の中溝倫子先生、縄秀志先生、樋勝彩子先生、加藤木真史先生、三浦友理子先生、奥裕美先生、青木美紀子先生、山田雅子先生、佐藤直子先生、ありがとうございました。

## 注

- 1) 関西学院大学国際教育・協力センター、ラーニング・アシスタント、関西学院大学国際教育・協力センターホームページ、  
<<https://ciec.kwansei.ac.jp/interaction/support/learning/>>, (2019/6/14)
- 2) 大阪樟蔭女子大学、学生サポート ラーニング・アシスタント、大阪樟蔭女子大学ホームページ、<<http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/campuslife/support/>>, (2019/6/14)
- 3) 淑徳大学、Learning Assistant Program(LA プログラム)、淑徳大学ホームページ、<<http://www.shukutoku.ac.jp/academics/keiei/about/la/>>, (2019/6/14)
- 4) 國學院大學、平成 28 年度後期 SA 募集のお知らせ、國學院大學ホームページ、2016、<<https://www.kokugakuin.ac.jp/news/9037/>>, (2019/6/14)
- 5) 仁愛大学付属図書館、ラーニングアシスタントに聞いてみよう！、仁愛大学付属図書館ホームページ、2014、<<http://www.jindai.ac.jp/lib/2014/001294.html>>, (2019/6/14)
- 6) 筑波大学付属図書館、学生サポートデスク、筑波大学付属図書館ホームページ、<<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/support/la/>>,

(2019/6/14)

- 7) 大阪大学附属図書館, ラーニング・サポートデスク, 大阪大学附属図書館ホームページ, <<https://www.library.osaka-u.ac.jp/ta/>>, (2019/6/14)
- 8) 愛知学院大学, Learning Method ピアサポート・システム, 愛知学院大学ホームページ, <<http://www.agu.ac.jp/project140/campus/business/index.html>>, (2019/6/14)
- 9) 関西大学, 三者協働型アクティブ・ラーニングの展開, 関西大学ホームページ, <<http://www.kansai-u.ac.jp/algp/>>, (2019/6/14)
- 10) 早稲田大学図書館, News 中央図書館に LA デスクが開設!, 早稲田大学図書館ホームページ, 2017, <<https://www.waseda.jp/library/news/2017/06/13/3740/>>, (2019/6/14)
- 11) 同志社大学, News ラーニングアシスタント募集, 同志社大学ホームページ, 2016, <<https://bit.ly/30Nh8hG>>, (2020/1/23)

## 参考文献

- 1) 菱沼典子, 井部俊子, 柳橋礼子: 看護学部の実習強化に向けた 看護学部と病院看護部の協働のプロセス, 聖路加国際大学紀要, 1, 66, 2015
- 2) 中園宏幸, 廣瀬喜貴: 滞在型ラーニング・アシスタントに生じる待機時間とその効果的な活用, 同志社大学学習支援・教育開発センター年報, 6, 31, 2015
- 3) 岩崎千晶: ラーニング・アシスタントの実践的思考に関する分析 —初年次教育“スタディスキルゼミ”における学習支援を基に—, 関西大学高等教育研究, 5, 29-38, 2014
- 4) 中溝倫子, 佐居由美, 宇都宮明美: 看護学部生の能動的学習を推進する実習室環境の整備, 聖路加国際大学紀要, 3, 73, 2017
- 5) 佐居由美, 植田尚子, 眞鍋裕紀子: 聖路加国際大学看護学部実習室の現状と課題, 聖路加国際大学紀要, 1, 113, 2015